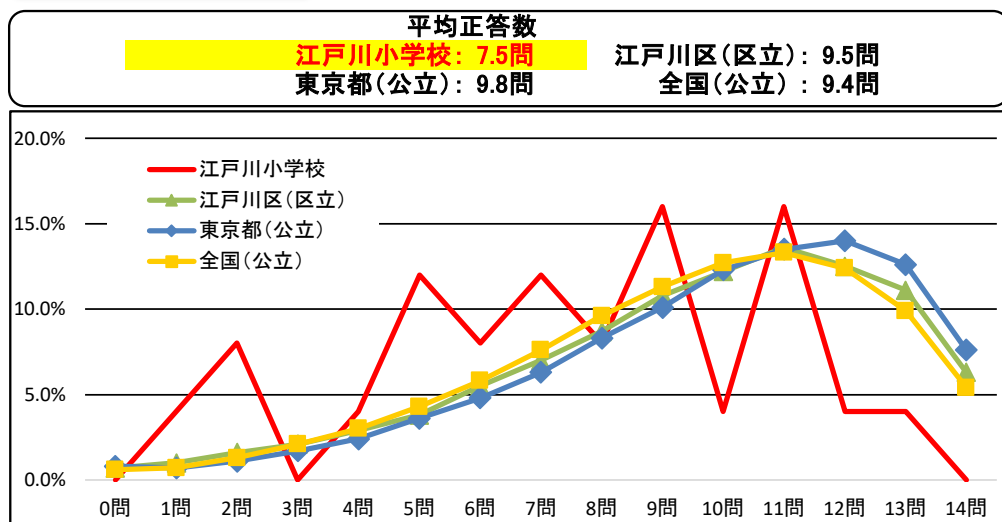


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川小学校

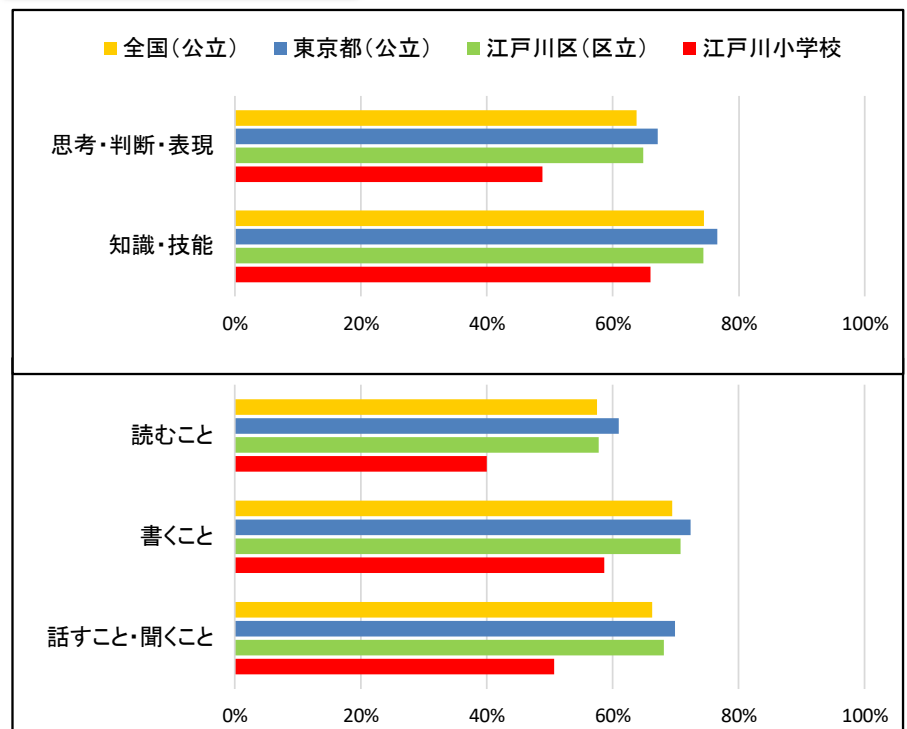
正答数分布



【平均正答率の差】

江戸川小学校	54%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-16.0

「領域別」の結果

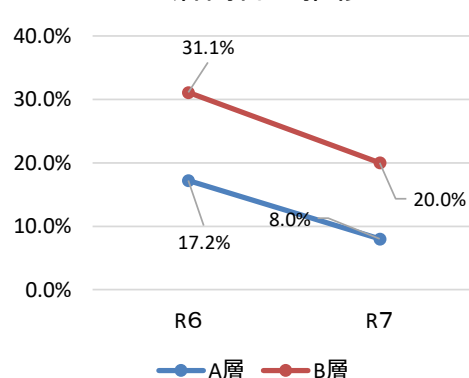


四分位における割合（都全体の四分位による）

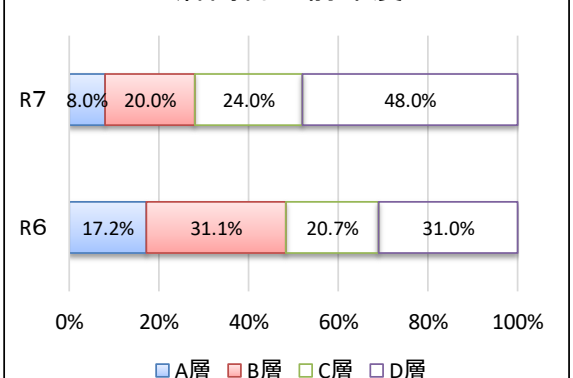
国語	上位 ← 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
江戸川小学校	8.0%	20.0%	24.0%	48.0%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

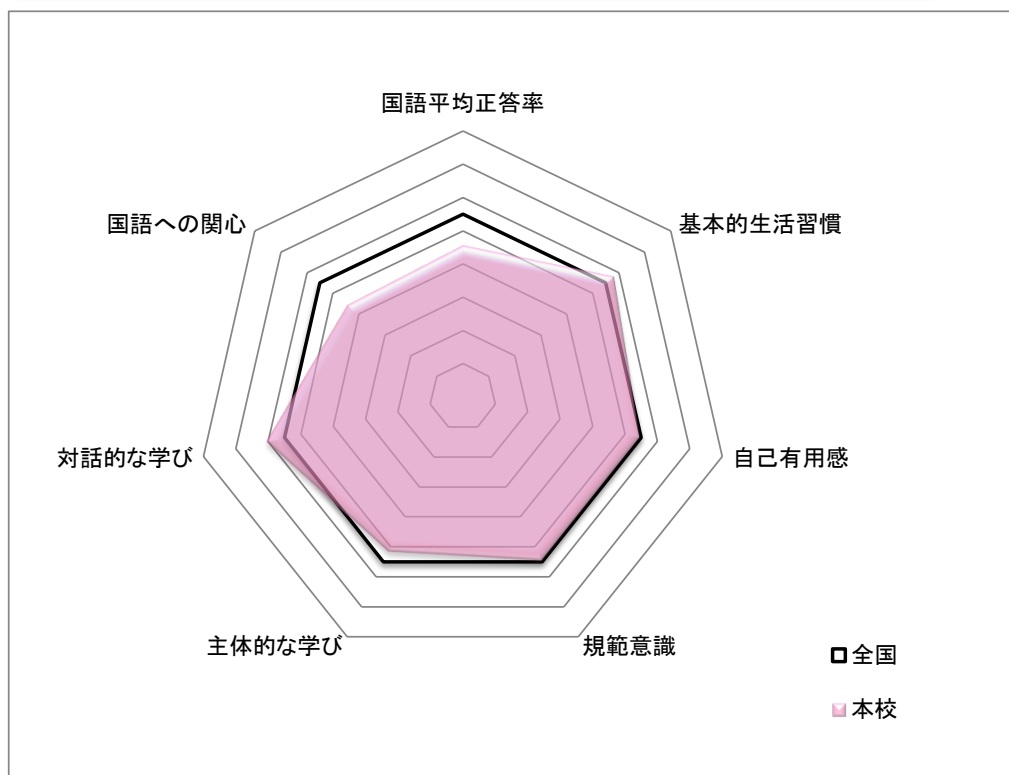
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

本校は「基本的な生活習慣」と「規範意識」が全国平均を上回っており、生活面での安定している傾向がうかがえる。また、「対話的な学び」も全国平均とほぼ同等で、協働学習やコミュニケーション能力において遜色ない水準である。一方で、「国語平均正答率」「主体的な学び」「国語への関心」は全国平均よりやや低めで、特に学習に対する主体性や自分の力を実感する面で課題があると考えられる。全体としては、学習意欲や国語学習への関心をさらに引き上げる余地があると考えられる。

《家庭・地域への働きかけ》

本校の子どもたちは、生活習慣やルールを守る力が全国平均以上で安定しており、友達との協力やコミュニケーションも順調である。一方で、国語の正答率や主体的に学ぶ力はやや低めである。家庭では、子どもが「できた」と実感できるよう声かけや小さな達成の共有を心がけ、学習に取り組む意欲を育てる支援をお願いしたい。また、読書や話し合いの時間を増やすことで、国語への関心を高めることにつなげたい。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

令和7年度でA層8%、B層20%と合計28%であり、令和6年度の48.3%と比較すると減少していることが読み取れる。A・B層の育成には、基礎的な語彙力や読解力の定着を重視した授業改善が必要である。具体的には、文章構成や読解問題の学習を通して論理的思考を促すことや、個別の習熟度に応じた課題提示や振り返りを行うことを今後も継続することで、基礎的な学力を伸ばしていく。また、読書タイムや話し合い活動を取り入れ、表現力や意見形成力を伸ばすし、AB層をさらに伸ばしていく。また、家庭学習と連携し、日常的に文章に触れる機会を増やすことで、児童の学力向上と学習意欲の喚起を図っていく。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

教員の指導力向上には、学校全体の組織的な支援体制を整備することが重要である。具体的には、定期的な研修や研究授業の実施に加え、指導力向上を目標とした評価・報告の仕組みを導入する。授業公開ウィークでは、教員同士が参観し合う場を設け、チームとして改善策を検討・実践することで、個人の力量向上だけでなく学校全体の指導力を高める。また、校内研究では、校外の専門家からの指導を通じて、新たな知見や指導法を取り入れる体制を作ることで、持続的な指導力向上を目指す。

・基礎学力の保障

基礎学力向上には、学年や習熟度に応じた苦手単元や分野の分析が重要である。まず、国語の基本的な知識・技能の定着を重視し、繰り返しの練習や確認テストを通して基礎力を確実に身に付ける。また、学習内容を小単元に分け、達成度に応じた個別支援や補習を行うことで、理解の遅れを防ぐ。加えて、家庭学習や自主学習との連携を強化し、家庭での学習や読書の習慣化を促す。さらに、授業内で考え方の過程を言語化させる活動や、友達同士の学び合いを取り入れることで、思考力や判断力、表現力を育成する。これらの取組を通じて、全児童の学力底上げを図る。

・学習習慣の確立

毎日の授業の始まりや授業の終わりに短時間の振り返りや自己評価を取り入れ、学習の見通しと整理を習慣化する。次に、家庭学習や読書タイムや読む読むタイムなどを活用して基礎的な学習を継続的に行うことで、「学ぶリズム」を学校生活の中で定着させる。また、児童同士の学び合いやペア活動を取り入れ、互いに教え合う中で主体的に学ぶ姿勢を育てる。さらに、教師が日々の小さな努力や成長を積極的に認め、学ぶことの楽しさと達成感を実感させることで、学習意欲を内発的に高める。

・AB層の育成

思考力・表現力を高める発展的な学習活動の充実が必要である。まず、基礎的な内容を確実に習得した児童に対して、探究的な課題や複数の考え方を比較する学習を取り入れ、自ら考える力を育てる。また、話し合いや意見交換を重視し、他者の考えを踏まえて自分の考えを深める活動を行うことで、表現力と論理的思考を高める。さらに、読書活動や作文・発表の機会を増やし、学んだことを自分の言葉で発信する力を伸ばす。教師は児童の思考過程を丁寧に評価し、挑戦意欲を支えるフィードバックを行うことで、AB層を中心に学力の質的向上を図る。